



## 新年のあいさつ

古牧地区住民自治協議会  
会長 西澤 征 防



古牧地区の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より住民自治協議会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。古牧地区

住民自治協議会も平成19年3月の発足から18年になりました。この間、12地区が連携し誰もが住みよい、安心・安全のまちづくり、思いやりとふれあいのある地域づくりを目指してきております。

過去には台風災害・大雨による河川の氾濫などありました。これからは、水害被害が発生することの無いよう長野市が計画的に事業を進めており、雨水調整池の掘り下げ工事も実施され下流への負担軽減が図られました。

危機管理水位計も設置され内水ハザードマップの活用と合わせて北八幡川水系の安全に大変役立つものと思われます。

また、感染症の蔓延で事業が行えない期間もありました。現在は各部会で順調に事業を実施しております。

結びになりますが、ふれあう・支え合う・助け合うという人とのつながりが「福祉の充実したまち」「災害に強いまち」につながります。

元気なまち古牧を目指し、住自協各部会・各種団体、行政機関と連携を密に取り組みを進めてまいります。皆様の更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年が皆様方にとって良き一年になりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 「ようこそ市長室へ」～古牧地区の課題の解決を要請～

11月8日（金）長野市役所市長応接室で「ようこそ市長室へ」が行われました。長野市からは、荻原健司市長ほか関係部長、課長と古牧地区からは西澤征防会長ほか副会長（2名）、事務局長が出席して古牧地区の2つの課題について提案、懇談が行われました。

最初の課題は、「都市計画道路高田若槻線の残区間の全線開通と交通安全」についてです。現在、高田若槻線は国道19号線の古牧小西交差点（五分一地籍）まで開通していますが、整備計画の残区間約480mが事業実施されていないことから全線開通は古牧地区、また、沿線住民にとりましては長年の悲願であ



り、当初の整備計画のとおり残区間の早急な事業の実施を要請しました。

また、国道などの幹線道路の多い古牧地区では渋滞を避けるため狭隘な生活道路に車が侵入し地域の皆さんが自由に道路の往来がで

次頁へつづく

#### 前頁のつづき

きないことから生活道路での交通安全の確保を要請しました。

長野市からは、高田若槻線の残区間の事業の実施については、今後、周辺道路の交通量調査などを行い事業の実施について検討していく、また、生活道路の交通安全については、古牧地区とともに協力をして交通安全を推進していきたいとの話がありました。

2つ目の課題は、「水害対策に向けての改修工事の促進と地域の防災対策の強化」についてです。現在、北八幡雨水調整池から地藏橋（西尾張部地籍）までの北八幡川で水害に備えて改修工事が実施されていますが、今後の本改修工事に向けて物価高などの上昇が工事に影響がないように事業費の確保をお願いしました。

また、地域の防災対策の強化として、古牧

地区にある小・中学校が災害時には指定避難所となるが櫻ヶ岡中学校には防災備蓄倉庫がなく避難所としての機能が果たせないことから同校に防災倉庫を整備するよう要請しました。

長野市からは、北八幡川の改修工事について令和3年度から年度計画のとおり進めており、水害が発生しないように順次進めていくとの話がありました。

また、櫻ヶ岡中学校への防災倉庫の設置については、市内の各指定避難所に年度計画により進めているが、計画の優先順位を上げて同校にも設置をしたいとの話がありました。

住民自治協議会としては、地域で解決できる課題は積極的に取り組んでいます。古牧地区だけでは解決できない課題については、引き続き、機会がある度に長野市に要請して参ります。  
(事務局)

## 今後の福祉事業の課題を協議

11月22日（金）古牧公民館集会室で「令和6年度古牧地区福祉関係団体長会議」が開催されました。当日は住民自治協議会の会長、副会長をはじめ、各種団体の団体長、福祉部会の役員30名が出席して、各団体より今年度の活動内容と課題について報告をしていただきました。

今後の福祉事業について、団体からの報告で特に共通していることは少子高齢化問題と子育て支援対策であり、地域福祉の最優先事業として取り組むべき課題と言えます。

高齢化による問題のひとつは、自宅から外出する際に交通手段がない高齢者が益々増加することへの対策です。福祉事業においては、各団体が連携していく体制づくりを早急に進めるべきで、現在、地域福祉は大半ボランティアに依存して活動を行っているが、福



祉事業を継続するには、持続可能な組織の構築が必要であるとの意見がありました。

福祉部会からは、現在、策定を進めている第4次地域福祉活動計画について説明がありました。

今後の福祉活動について、活発な意見交換の会議となりました。今回の会議の課題について古牧地区の全ての皆様が前向きに取り組む事で福祉の向上につながるものと思いました。  
(福祉健康部)

## 学校と地域で人権を考える集い ～家庭における性教育～

11月19日（火）南部小学校において「学校と地域で人権を考える集い」が開催されました。この集いは、南部小学校の人権教育講演会に古牧地区住民自治協議会が支援協力をし

て実施したもので、南部小学校保護者・古牧地区住民あわせて約60名が参加しました。講師は豊野高等専修学校非常勤講師・心が生き

次頁へつづく

る「性」アドバイザーの高橋ピン子先生で『家庭における性教育』と題して講演をいただきました。

世界の性教育は、オープンな姿勢で幼児期から継続して積極的に取り組んでいる国も多い。1年間で45時間の性教育を行っている国、性暴力や虐待・セックスや避妊・感染症予防なども教えている国がある。日本における性教育の時間は、中学校3年間で10時間程度で体の変化や妊娠・生命の誕生、性感染症などを扱うが性交や避妊そのものは取り扱わないなどの制約もある。

子ども達は「性」の知識や情報をSNSや友人から得ていることも多いが誤った知識や情報を信じたり性犯罪に巻き込まれる危険もある。

10代で望まぬ妊娠による人工妊娠中絶は1年間で約9,500件（令和4年度）ある。平成5年から「16歳が性行為への同意を自分で判断できる年齢」とされた。性教育は「16歳までに性の行動を自分で決めるのに必要な知識を身につけさせること」でもある。そして「性」の知識だけでなく、1組の男女からはじまるいのちの奇跡、はじまりから誕生までのヒトの生きる力といのちのすばらしさを伝える「いのちの教育」も必要である。



「性」と「いのち」について親子で対話することは、子ども達の心の成長に欠かせない。特に、10代の性行動は親子の対話が歯止めになると言われている。注意すべきは次の点である。

- ・子どもが興味を示した時に肯定的に答えていくのがベスト。
- ・淡々と事実を伝え、価値観をくつつけない。
- ・必要なことは堂々とまっすぐに教える。
- ・子どもは何を話されたかより態度、目線、雰囲気などを覚えている。
- ・親の一生懸命な姿勢が大事。
- ・何を伝えるかより、誰が伝えるかも重要。（高学年以上は同性の親がベスト）
- ・家庭に「性」の本、「いのち」の本を置こう。

性教育は人権教育そのものであること、家庭での親子の対話がとても重要であることを学ぶことができました。

（人権・男女参画部）

## 体験型の介護教室を開催

11月13日（水）古牧公民館和室で令和6年度「介護者のつどい」を開催しました。参加者は関係者を含めて14名でした。はじめに、長野市地域包括支援センターニチケア高田の3人の講師から「おむつ選びとおむつの交換のポイント」について指導していただきました。おむつの交換では2人1組で介護者と被介護者の立場になり、実際におむつの交換



の体験をしました。参加者の皆さんは慣れない体験に四苦八苦していました。次に、南長池診

療所の理学療法士西澤未生様から「床からの立ち上がり方のポイント」について講義をいただきました。資料を見ながら、転倒した場合に無理なく容易に立ち上がる方法、また、介護者が転倒している被介護者を容易に移動させる方法等について実際に体験して学習することができ、大変良い勉強になりました。

介護講座終了後に調理室に移動して、珈琲ボランティア・ボラボラの会の皆さんより本格的なコーヒーを淹れていただき、本日の講師の方と、普段疑問に思っていることや悩み事等について懇談し介護について良きアドバイスをいただき、参加者からは不安な気持ちがなくなったとの声がありました。

（福祉健康部）

## 光蓮寺所蔵「親鸞聖人御影御木像」

古牧郷土史研究会 村田 修 一

江戸時代、当寺門徒に長野町に住む常八という人がおり、善光寺大勧進の大工棟梁として高い評価を得ていました。ある時「親鸞松」（善光寺本堂のびんずる尊者の横の花瓶に挿されている松。親鸞が越後から関東へ向かう途中、善光寺に参拝した際、善光寺本尊阿弥陀如来へ松の木を手折り奉納したことに由来する。）を供えた花瓶の底から朽ちた松葉を掻き出している時に一体の木像を見つけました。

堂番の僧に尋ねると、「親鸞聖人の御木像に相違なし。全く御自作の像を御花松と共に花瓶に収め供え給ふなるべし。然らば汝に深き因縁あり。依って供奉し崇敬致すべし。」と言われたので家へ持ち帰りました。

その後、ある夜常八の枕元に生身の阿弥陀

如来が現れ「我はかしこに化を施さんが為に来現す。是より東方に当たり有縁の地あり。

早く我を移すべし」と言われました。不思議に思い、翌朝、当寺院の住職了観様にこのことをお話しすると「昨夜我も右の夢を見しなり」とのことでした。そこで常八は自分の住む長野町の東方に当たり有縁の地といえば光蓮寺であるとして御木像を当寺へ収めたということです。

参考：「親鸞聖人御影御木像縁起書」



しゃべえんびつ



## OB会 ゴルフ・コンペ

40年程勤めた会社のOB会ゴルフ・コンペが11月19日（火）に行われました。年2回開催され、春は斑尾高原カントリー倶楽部、秋に浅間高原カントリー倶楽部にて実施されます。



今回は13名の参加で55才～81才までの方が参加し天気は良かった

のですがとても寒く、また、風も強く71才の私には大変辛い1日になりました。時期的な事もあり参加者も少なかったような気がします。

65才の時から参加していますが、中々逢う機会もないので毎回楽しみにしています。

プレー終了後の表彰式では昔話や近況の話で大変盛り上がり、来年からは秋は10月に変更するとの事でいつまでゴルフが出来るか分かりませんが出来る限り参加したいと思いました。

（江守 政春）

1月から2月までの主な行事実施日のお知らせは回覧等でお知らせします。



古牧地区の世帯数と人口

令和6年12月1日現在

11,890 世帯

26,061 人

（男 12,911人 女 13,150人）

■発行所 古牧地区住民自治協議会  
（電話259-8359・FAX219-1057）  
（E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp）

■発行者 西澤 征防  
■編集 ぶらネットこまき編集委員会  
■印刷 ㈲小池印刷



HP  
ご覧ください